



「えんたくん」には、議論で 出たキーワードを思い思い にメモしていく。可視化す ることで、思考が明確にな

などが登壇した。

中塚星来さんは、

だというお話が面白かったです たとし、次のように語った。氏の講義がもっとも印象深か の捉え方に関して研究してみた ね。表情や声のトーン、 るのがコミュニケーションの要 それをくみ取りながら会話をす とした仕草など、他者とのコミ 「言葉には前後の文脈があり、 ションから感じる情報 ちょっ

世界で勝てるのか?」というテ ンチの円形に切り抜かれた段ボ威力を発揮するのが、直径80セループワークに臨む。その際に

劇作家・演出家の平田オリザ氏 る力を養うことを狙いにしてい ーツ研究教育院特命教授であ 自分の頭で考え、 ナリストの池上彰氏や リベラル 発信す

という話が出てき

講義の内容や感想は「ふりかのがすごく印象に残りました」宗教がいいとおっしゃっていた宗教がいいとおっしゃっていた。 けるには、読書・ がありました。孤独力を身につ その中の一つに『孤独力』 一人旅・スマ

ートを持ち寄り、4人一組のグ少人数クラスに備える。このノ き、講義の感想をお互いに発表



輪になって座り 対話をするところから

究教育院の中野民夫教授だ。 員のひとり、リベラルア

クトの立ち上げにかかわった教

こう語るのは、立志プロジェ

理工系総合大学でありながら、人文社会系の教養教育にも力を入れる東京工業大学。

入学直後の新1年生全員が受ける「東工大立志プロジェクト」という注目の授業がある。

でなくてもかまいません」 *志、を立てる。大げさなもの は何ができるのかを自覚しても

らいます。そのためにまずは、

自分は何をしたいのか、

自分に

に刺激する授業です。

大学生活

「まだ見ぬ自分の可能性を大い

という広大なフィ

ールドを前に、

まざまだが、重要なのは、

よりも志を立てること自体だと

なものから、

壮大なものまでさ

生たちが「東工大立志プロジェ

ト」で立てた、志、だ。身近

初夏のある日の授業。新1年

溝师陣による大人数講義と、30第一線で活躍する多様なゲスト立志プロジェクトは、社会の 多様なゲストが登場

人弱のクラスでのグループワ



中塚星来

なかつか・せいら/文系と理系の橋 渡しができるような人物になること



今井綾乃 いまい・あやの/在学中に留学して、 日本以外の世界に肌で触れてみたい

どこに注目したかがわかるのも 自分たちの足跡が残るのが 過は意外とすぐに忘れてしま て共同で何かを学び合ったり創 面白いと思いました」 受動的な学びが能動的な学びに ん」の効果をこう評価する。 ますが、『えんたくん』があると、 - ズによって、仲間がテ 「自分の言ったことや議論の経 教員が一方的に話す講義形式 小野寺司宏さんは「えんたく 自らが参加・体験し メモをするフ マの

「もっとも興味深かっ

ツ研究教育院の教員たちは、 授業を担当するリベラルア (進行役)を担う。 ープワークが建設的に進むよ トするファシリテー

ファシリテー

ター

教員が担う

ではありません。学生たちが思 ータ

題の正解を出す高校までの学び ループワークは、与えられた問変わる。立志プロジェクトのグ 大学の学びとの違いを感じ

Tokyo Institute of Technology 東京工業大学

Institute of Technology

るだけの自信をつける」「ス 出したい」「未知の分野の本を



第5類(学士課程)1年 小野寺司宏

おのでら・かずひろ/情報工学系に

コミュニケ

人と話すこと

代を担うのは若者であり、彼らがいかに元気かと付金を募る。記者会見で大隅栄誉教授は、「次世

良典栄誉教授の寄付を原資に、

広く一般からも寄

若手研究者の支援や、裾野の拡大なども掲げて

る。16年にノーベル医学生理学賞を受賞した大隅

にわたる取り組みが必要な基礎研究分野における

に資することができれば」

を語った。

また、

東京工業大学科学技術創成研究院は17年

いうことが社会の未来を決めてい

くと思う。

そこ

。グループワ

材を育成することを目的に、経済的支援が必要なこの基金は、将来の日本を支える優秀な理系人

念基金」を設立した。

業大学は20

年1月、「大隅良典記

学生が同大で学ぶことを支援する。

ならい

やまもと・たくみ/学士課程のうち が目標。 手助けになると思いました」 大学生活を充実したものにする ために大学に入学 めて考えましたし、これからの きてよかったです。 友達の夢や目標を聞くことがで のこの時期に立志プロジェク があることで、自分がなんの

したのかを改

入学してす

大隅良典記念基金と

胞制御工学研究センタ

山本拓実

は、文理関係なくしっかり学ぶこと とんどないですが、この授業で

進み、画像に関する研究をしたいと いる学生は多い 「人と話すのが苦手」と感じて

大きな知恵や力へと編み上げて のそれぞれの意見を引き出し、社会では、個性の異なる人たち 多様な価値観が許容される現代 個性の異なる人たち が一般的だったが を履修し終 次のよう が必要だ ファ ョン力が上がり、重ねていけば、コ クで毎回、 段だと考えています」(中野教授) 話重視の授業は非常に有効な手 な学びの場として、 テ は、非常にうれしいです。アク 明確になっていく様子を見るの 業を通じて、 をしたいのか、 学生が活発に発言していた。 友達も増える。そう感じさせる の楽しさを知ることもできる。 っていますが、主体的で協働的 っていない場合が多い。 「入学したての学生は大学で何 ィブ・ラーニングが話題とな この日の授業では多くの 仲間たちとの対話を 彼らの志が徐々に

明確な目標を持

この授

教授がセンター長に就任した。前身である「細胞

4月、細胞制御工学研究センター

を設置。大隅栄誉

造性が発揮されるように促しま変に受け止めて新たな学びや創

場で起こっていることを臨機応

なごやかな雰囲気を整え、

ij

ダ

志プロジェクトで、リベラルア 大きく変わり始めた東工大。立 教育もさらなる進化を遂げ 学部と大学院を統一するなど

見いだす。これまでのリーダーに新しいリーダーシップ像

に総括した。

「普段の生活で、

自分の夢や目

えた山本拓実さんは、

立志プロジェ

ク

仲間を引っ張っていく

標について誰かに話すことはほ

3 ッ 中野教授は、

ファシリテ ダーシップ像を

場を和ませる一つの手段なのだターの弾き語りで披露。これも、

楽しさを知る人と話すことの

こうした対

大隅栄誉教授(手前中央)と細胞制御工学研究

視野に入れ、

幅広い

創薬への応用までを 生命科学から医療

生かしながら、基礎やの強みを最大限に

基礎

ト」から継承した数

制御工学研究ユニッ

センターの教員たち

・推進する細胞制御 生命科学研究を牽引

上学の拠点を目指す

冒頭に自身が作詞作曲した「生

シリテ

という。それを担うのが、

いく支援者型リ

ーダー

その日の中野教授の授業では

みません」(中野教授)

話の内容にはまず口をはさ

きているうちに」という曲をギ

h

執行部らがビジョンを共有する

ついて、学生・教職員・ 030年の東工大像」に

ため、2016年秋から世代別

・クショップが4回実施さ

目標に掲げる東工大は、全学をあげて「2030年の東工大像」を 2030年に「世界トップ10に入るリサーチュニバーシティ」となることを

私たちには私たちにし あ る 0

最高の『知』が集結した大学で

て、なんでもざっくばらんに話員・職員らの距離がすごく近く

ないものを見つけ、

割りだせた喜びそして

世界の人々の幸せに

ムたちは、その喜びを

がり共に動き続ける を楽しめる を見る人と、 夢を見る人と、 できる を見る人と、 ら(何万回とい)

手にできる入り口にいる

つなげていく喜び

し合える空気を持ちあわせてい

さらに分かったのは、学生・教 う『志』も鮮明になりました。 力で世の中を豊かにしたいとい あるという自負、科学・技術の ました。

理工系総合大学として

いう、みんなの思いを強く感じ尖った存在であり続けたい』と

みんなの思いを強く感じ

まだ、信に

じられこと

0

な

との

こと

を次のように語った。

「『世間におもねることのない

した三島良直学長は、手ごたえ

独創的な意見が多く出された。

自身もワー

クショップに参加

アックな人材を送り出す」など、

る程度の協調性を併せ持つマニ (種)を育てる」「高い専門性とあ う」「他では気づかないシーズ

たいように研究をしてもら

話し合われた。「その人たちが

探究する試みをスター

トさせた。

るのか、その強みで未来の社会

東工大独自の強みはどこにあ

にどんな価値を提供できるかが

ワークショップの成果と東工大改 革の方向性については、「2030 年に向けた東京工業大学のステ ートメント」としてまとめられ、 ポスターも制作された



ワークショップで輪になって話し合う三島良直学 長(右から2人目)と教職員

ずや本学が目指す姿に達する。 有する "Spirit』として打ち出というスローガンを全学的に共 り拓いていく。それにより、 「2030年に向けた東京工業 とができると確信して "Action"で、新しい社会を切 らせる』『共鳴する』『実装する』 りが、、Spirit、を胸に抱き、 「今後、本学の構成員一人ひと ちがう未来を、見つめて 大学のステー 大改革の方向性をまと さだと思います ークショップの成果と東工 トメント」を発表。 め

Tokyo Institute of Technology

105